

平成 29・30 年度 県指定研究協力校「キャリア教育」 徳之島町立手々小中学校 公開研究会

平成 31 年 2 月 13 日 (水) 公開

研究主題

主体的な態度で生活を工夫し、自分らしい生き方を実践する児童生徒の育成
～発達段階を踏まえ、地域の特性を生かした教育活動を通して～

I 研究の仮説及び研究構想、研究の柱となる取組、研究の成果及び課題

研究の仮説及び研究構想

<研究の仮説>

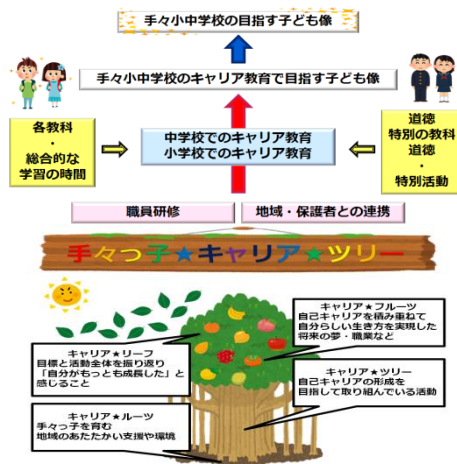
仮説 1

キャリア教育の視点で地域と連携した教育活動を再構築し、小中 9 年間を見通した支援を実施すれば、児童生徒の主体性や課題解決力をより育てるのではないかと。

仮説 2

少人数での学習や小中が連携したキャリア教育の取組において、児童生徒各々の個性を生かし、役割を全うさせる支援を系統的に継続すれば、自分の将来を見据えた積み重ねの学習を実感しながら、より様々な場面で活躍できるのではないかと。

<研究構想図>



研究の柱となる取組

<小学校 われんきやガイド>

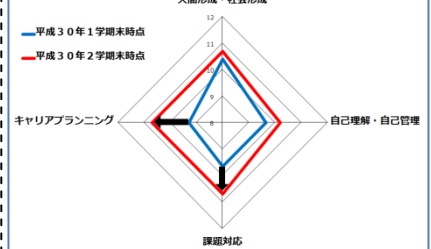


<中学校 総合的な学習の時間>



研究の成果と課題

<児童生徒の変容>



1 研究の成果

- 明確に将来を意識し、自分の将来像を現実的に捉えられるようになった。
- 自ら考えて行事や活動に取り組み、主体的に具現化の過程を楽しむ、充実感や達成感を感じている。
- リーダーとして、見通しを立てて準備することができるようになった。
- 人前で堂々と発表できるようになった。
- 客観的に自分の成長を実感することで、キャリアプランニングの能力が伸びてきた。

2 研究の課題

- キャリア教育を意識した取組の継続や改善、自己肯定感の醸成を推進する。
- 主体的な学習につながる支援を継続する。
- 主体的な活動機会を設定し、リーダー育成を継続する。
- 客観的に自分や他者のよさに気付き、互いを高め合う雰囲気づくりに取り組む。
- 他者との交流の場を多く設定し、自己肯定感の醸成に取り組む。

II 研究授業及び全体会・分科会の様子

研究授業

分科会(グループ討議)

小学校



中学校



全体会(研究発表)

参加者の意見や感想

- 「われんきやガイド」の取組がとても子供たちにとって楽しく、勉強にもなる授業だった。真似できるところは参考にしたい。
- キャリア教育の考え方が大きく変わるきっかけになった。子供たちの将来を見据えて指導していきたい。
- 子供たちの発達段階に応じて、系統立てて活動されている様子がよく分かった。
- 人数が少ない中、多様な意見が出され目標をもって活動していた。主体的でとても良かった。
- 子供たちの姿を見るまでは、同級生が少ないのは可哀想だと思っていたが、ハキハキと意見を述べ、ひたむきに学習に取り組み、心を動かす作文を書いていた。少人数指導・教育の底力を見ることができた。
- 生徒が自主的に活動し、話し合いや授業に必要なものの準備をしていて、とても感動した。
- ▲ 仕方のないことではあるが、グループ討議の時間をもっと長く設定してほしかった。

